

環境保全へ連携を

エコノワ
交流会

企業や団体の環境保全活動を紹介する「エコノワとやま交流会」が17日、富山市のテクノホールで開かれ、約50人が活動を広げるため連携の在り方を考えた。

環境保全に取り組む企業や団体の連携と協働を進めようと、テクノホールで同日始まったとやま環境フェアに合わせて、県ととやま環境財団、北陸環境共生会議が開催した。

でんき宇奈月プロジェクトの大橋聡司代表理事は、黒部市の宇奈月温泉街で小水力発電や温泉熱を活用し、電気バスを導入するなどエコリゾートを目指した地域活性化の試みについて説明。里山再生に取り組む富山市のNPO法人きんたろう倶楽部の中野康英

副理事長は、呉羽丘陵で森づくりに取り組んだり、ベビーカーや車いすも楽に通れる「さとやまの木道」を間伐材で整備したりして、地域のひとと共に楽しく活動している様子を紹介した。

この後、参加者はとやま環境フェアを見学した。



エコノワとやま交流会で中野副理事長の話を聞く参加者。テクノホール

北日本新聞 平成27年10月18日(日)

「エコノワとやま」登録者らが交流会

環境美化に取り組む企業や非営利組織(NPO)などの情報発信サイト「エコノワとやま」(運営・とや

ま環境財団)は17日、登録者たちによる交流会を富山テクノホール(富山市友杉)で開いた。同ホールで開催中の「とやま環境フェア2015」(読売新聞北陸支社など後援)の一環。参加者約50人が日頃の取り組みを発表したり、意見を交換したりした。

事例発表では、宇奈月温泉のエコリゾート化を目指す「でんき宇奈月プロジェクト」代表理事の大橋聡司さんが、温泉街で導入しているレンタルの電気自動車や電動アシスト自転車、

小水力発電によるエネルギー自給システムなどについて紹介した。大橋さんは「環境保全と地域社会の活性化につなげたい」と話した。

里山再生に取り組む「きんたろう倶楽部」副理事長の中野康英さんは、里山の整備活動や木材の有効活用について講演し、「仲間と楽しみながら活動することが大切だ」と呼びかけた。

読売新聞 平成27年10月18日(日)